

地域産学連携センターだより第8号

事務局 研究・地域産学連携担当
内線 2152 E-mail edec@spu.ac.jp

本学は地域貢献の一環として、教育資源や研究成果を地域・社会に還元しています。第8号では、小中学生や高校生を対象にした活動を紹介します。本学が専門とする保健医療福祉に関心を持っていただくことだけではなく、知的好奇心や探究心など、子どもたちがこれから学びを続けていく上で大切な心を育てる活動でもあります。

オープンカレッジ 教員の専門性を活かした、多彩なオープンカレッジ

小中学生や高校生を対象とした講座では、昨年度の「地域産学連携センターだより」でも紹介した「3Dプリンタを使ってみよう」（作業療法学科 小池祐土助教、押野修司准教授）や「生命科学体験講座～いのちを体験しよう～」（検査技術科学専攻 安藤克己准教授、矢野哲也准教授、井原寛子准教授）、「身近なモノからDNAを取り出そう」（検査技術科学専攻 伊藤さやか准教授、白土佳子准教授）のほかに、今年度より新たに3つの講座を実施しました。

◆「からだ」のおはなし会◆

『「からだ」のおはなし会』は本学の先生方（看護学科 高橋恵子教授、田村佳士枝准教授、平田美佳准教授、吉村基宜助教、山田牧子助教）が「からだ先生」となり実施しました。5歳前後のお子さんを対象に絵本などを使いながら、からだの仕組みや健康について考えました。

◆SPU☆ナースィング～看護師を目指す
高校生のためのオープンカレッジ～◆

看護学科の3名の先生（看護学科 山口乃生子教授、齋藤恵子准教授、東口晴菜助手）が担当し、「グローバルヘルスと看護」と「急性期看護の実際」をテーマに2日間開催をしました。「低所得国に必要な支援は医療のみではないと知ったので、医療に加えて教育などもできる人になりたい」「倒れている人のサポートになるように自信をつけたい」等、参加者の看護を学ぶ気持ちが高まったことを感じられました。

◆自分の走りを分析して高めよう！◆

「自分の走り方を分析して高めよう！」（共通教育科 八十島崇准教授）は、2日間にわたり講座を実施しました。1日目には、自分の走り方をビデオで撮影し、その動画から歩幅や脚の角度を分析。走り方のポイントや改善のためのトレーニング方法を教わりました。約2週間後に実施された2日目の講座では、初日に教わったことを踏まえ、改めて、自分の走り方の撮影、分析を行いました。

また、本講座の受講者が、自分自身でさらに探究をおこない筑波大学が主催する「科学の芽」賞を受賞したことを、報告してくれました。



地域連携

「夢を見つける！リアル体験教室」(埼玉県 事業) で4教室を開催

埼玉県が県内の企業、学校、団体等と協力し、県内の小学4～6年生を対象に、体験活動を通じ、子どもたちの見えないチカラ(チャレンジ精神や想像力等の非認知能力)の育成を支援する活動「夢を見つける！リアル体験教室」に本学では4教室を開講し、合計135名の小学生を受入れました。

「日本の伝統文化の研究者になろう」

(共通教育科 浅川泰宏准教授、小松睦美准教授)



「3Dプリンタを使う作業療法士になりたい」

(作業療法学科 小池祐士助教、押野修司准教授)



「歯と口の健康を守る歯科衛生士になりたい」

(口腔保健科学専攻 吉田隆教授、植野正之教授、佐藤玲子准教授、秋山恭子准教授、新井恵准教授、柳澤伸彰准教授、戸田花奈子助教、江良裕子助教、久保田チエコ助教)



「看護師になりたい」

(看護学科 畔上光代准教授、小川千恵子助教、木村諭志助教、阿部真純助教)



地域連携

高校生向け事業も多数実施。開放授業&出張講座！

本学の教育内容に対する理解を深めてもらい、主体的、創造的な学習態度の育成と学習機会の拡大のため、高校生向けに本学の授業の開放を行っています。2023年度前期は5科目、後期は4科目を開放し、計67名の高校生を受け入れています(オンラインでの参加を含む)。

また、出張講座は県内の高校や中学校を中心に、本学教員が出向き、講座を行うものです。

2022年度は48校に出向き、2023年度も12月までに39校で出張講座を実施しました。

2023年度に高校生の受入を行った科目

【前期】**生物学②**(共通教育科 小林憲生教授) / **公的扶助論**(社会福祉学専攻 大岡華子准教授)

ソーシャルワーク概論(社会福祉学専攻 保科寧子准教授) / **教育学**(共通教育科 東宏行教授)

臨床検査概論(検査技術科学専攻 安藤克己准教授)

【後期】**哲学**(共通教育科 高村夏輝准教授) / **老年看護学Ⅰ**(看護学科 辻玲子准教授)

社会福祉の原理と政策Ⅰ(社会福祉学専攻 相良翔准教授)

ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ(社会福祉学専攻 大岡華子准教授)

在学生の皆さんは、開放授業で高校生と同じ教室で授業を受けることがあるかもしれません。その際は、是非あたたかく受け入れていてください。

ご覧いただいた感想、これから取り上げてもらいたい事柄など、是非ご意見をお寄せください。